

FP まつもと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

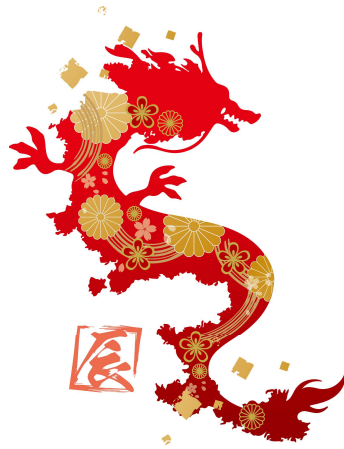
ご挨拶

新しい年を迎え穏やかに過ごしのことと思います。2024年が皆様にとってより良い年になるようお祈り申し上げます。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」です。

「甲」は、十干（じっかん）の一番最初の文字で、物事の「はじまり」を、「振」から文字をあてられたのが「辰」で万物が成長し動きが盛んになる様子を意味するそうです。

今までにまいた種が大きく花開く年になるとよいですね。



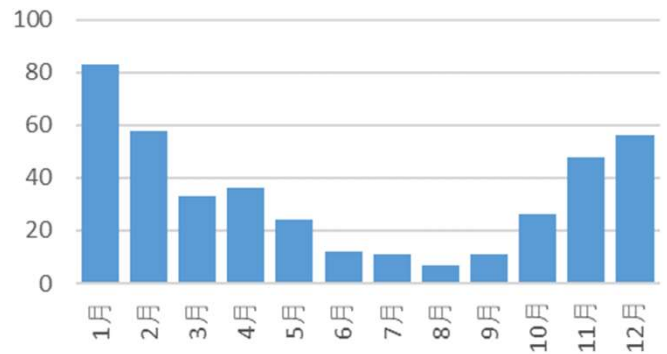
今月号のちょっと気になるお金のコラム

大谷選手の契約金は10年総額7億ドルのプロスポーツ史上最高額でした。ただしそのほとんどが後払い、後払いにするとこんなに大きく価値がかわるのですね。

この時期ヒートショックに注意しましょう

消費者庁の「高齢者の事故に関するデータとアドバイス等」によると令和3年に家庭の浴室で亡くなった高齢者は5097人で交通事故の2150人を大きく上回っています。

この時期、特に高齢のご家族がいる方に注意していただきたいのがヒートショックによる浴室での「溺死・溺水」です。下表は東京消防庁管内における高齢者の溺れる事故による月別救急搬送数（令和3年）ですが11月から2月の寒い時期に搬送数が多くなっています。



冬場の入浴は暖かい室内から温度が低い脱衣所で衣服を脱ぎ、暖かい風呂に入るといって温度変化によりヒートショックになりやすいといわれています。

脱衣所を温める、入浴前に同居者に声をかける、高温長湯を避ける、などによりヒートショックによる事故が起こらないようにしましょう。



FP 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの「悲惨な老後の実態」を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、「確定拠出年金」や「つみたてNISA」を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

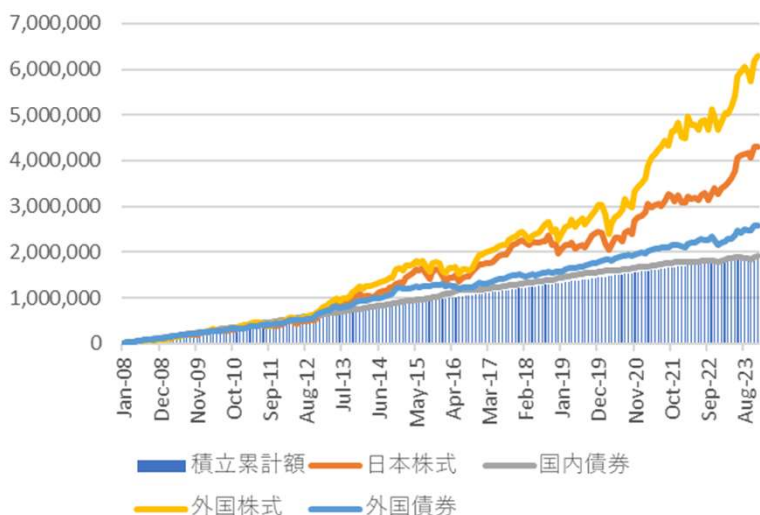
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Oct-23	Nov-23	Dec-23
積立累計額	1,900,000	1,910,000	1,920,000
日本株式	4,063,852	4,292,110	4,291,462
国内債券	1,847,121	1,895,511	1,912,651
外国株式	5,732,012	6,189,707	6,306,785
外国債券	2,478,560	2,574,275	2,586,027

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できます。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①192万円（青棒）は2023年12月に②630万円（オレンジ線）、約3.28倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,272,476	データ数：73

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

利上げ観測に振り回された2023年

	日経平均		NYダウ		ドル円
Oct-23	30,858.85	-3.14%	33,052.87	-1.36%	151.45
Nov-23	33,486.89	8.52%	35,950.89	8.77%	148.19
Dec-23	33,464.17	-0.07%	37,689.54	4.84%	141.00

2023年の株式市場は日米とも大幅に上昇しました。日経平均株価は昨年末比+28%、NYダウ平均株価は+14%でした。

年末にかけて大きく上昇しましたが米国の金利動向に振り回された1年でした。下図は2023年のNYダウ平均株価の推移です。



3月には米シリコンバレー銀行など米国地銀が破綻、信用収縮に対する懸念が高まり3月13日には31,819ドルまで値下がりしました。

その後は11月には利上げが終了するとの見通しから株価は回復しましたが夏になってもインフレが鎮静化しないことから利上げが継続するという見方が優勢となり値下がりしました。

その後の10月以降のFOMCで利上げをしなかったことや利上げ終了を示唆するFRB理事の発言などにより年末にかけて株価は大きく上昇しました。

相当程度2024年の利下げを織り込んでいるといわれているので、その予想が外れると大きく下がることもあるかもしれませんが値動きに惑わされず投資を継続することが大切です。

2024年は選挙の年

2024年は各国で重要な選挙があります。

1月	台湾総統選
2月	インドネシア大統領選
3月	ロシア大統領選
4月～5月	インド総選挙
6月	欧州議会選
9月	自民党総裁選
11月	米国大統領選

選挙の結果によっては政治・経済・社会に大きな変化をもたらすかもしれません。特に11月の米国大統領選挙は世界に大きな影響を与えます。

選挙が近づくとつれ、結果による市場の動きに関する予想や記事が多くなると思います。下落を予想する記事が多くなると様子見をしたくなるかもしれません。

アメリカで最初に株式取引が行われたのが1792年（初代大統領ジョージ・ワシントンの時代）と言われています。現在のバイデン大統領（第46代）までの間、何度も大統領が変わっていますが株価は上下を繰り返しながら上昇しています。

ジュレミー・シーゲルの書籍「株式投資」によると1801年に米国株に投資した1ドルは200年後に約60万倍になっていたそうです（2001年から2023年まででさらに約3.5倍になっている）。

短期的な値動きをとらえて利益を上げることを目的としているのであれば選挙の動向をチェックする必要がありますが、長期の積立投資では、短期的な値動きやそれを解説するニュースに惑わされず、「投資先の企業の成長を待つ」というスタンスで投資を継続することが大切です。

ちょっと気になるお金のコラム

大谷選手 7億ドルの史上最高額の超大型契約

先月は大谷選手のプロスポーツ史上最高額の契約が話題になりましたね。

10年総額7億ドル。1ドル145円で計算すると1015億円と桁外れの金額です。ちなみに日本プロ野球選手会の調査によると2023年の支配下選手714人の年棒の合計は319億円なので大谷選手一人で日本の全選手の年棒を3年間まかなえることになります。

伝えられている契約内容によると7億ドルを一度に受け取るわけではなく、以下のような分割払いになるようです。

		万ドル	
2024年	200	2024年	6,800
2025年	200	2035年	6,800
2026年	200	2036年	6,800
2027年	200	2037年	6,800
2028年	200	2038年	6,800
2029年	200	2039年	6,800
2030年	200	2040年	6,800
2031年	200	2041年	6,800
2032年	200	2042年	6,800
2033年	200	2043年	6,800
2,000		68,000	

後払いの7億ドルの現在価値は？

今の100万円と10年後の100万円では同じ100万円でも金利や物価の状況により価値が異なってきます。

例えば金利が1%の場合、今の100万円は1年後に101万円に、2年後には102.01万円に、と殖えていき10年後には110.5万円になります。反対に10年後の100万円は1%ずつ割り引き現在の価値にすると90.5万円になります。

つまり同じ100万円でも今の100万円の方が価値が高いことになります。

同じように大谷選手の7億ドルを現在の価値に引き直すとうなるか計算してみましょう。

6億8000万ドルを10年据え置き、その後10年かけて毎年6800万ドル支払う契約です。金利はアメリカの10年国債の利回り4%で計算します。

厳密には2033年の200万ドルは現在の・・・、2032年の200万ドルは現在の・・・、と計算しますが、計算を単純にするために10年分の年棒2000万ドルは割引かずに、10年後からの6億8000万ドルの分割払いについて計算してみます。

6800万ドルを10年間支払う為の原資は約5億5100万ドル

5億5100万ドルに4%の利息が付き、そこから6800万ドル取崩す、残りに4%の利息が付き、そこから6800万ドル取崩す、を10年間繰り返すと原資の5億5100万ドルがちょうどなくなります。

つまり2034年時に必要なのは6億8000万ドルではなく5億5100万ドルということになります。

では、2034年に5億5100万ドルになっているためには今いくら必要でしょうか？

約3億7260万ドルあれば4%複利で10年後には約5億5100万ドルになる計算です。契約総額は7億ドルですが実際に球団が今準備しなければならない金額は随分と少なくなることがわかります。

もし仮にこの20年がインフレ傾向だったり金利が高くなったりすると10年7億ドルの後払い契約の現在価値はより小さくなります。大谷選手はそれで困ることはないと思いますが私たちの老後資金準備ではお金の価値の変化も考慮して準備をしておく必要がありますね。

